

(別記)

## 2020 年度朝日町地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当地域は、りんごを基幹作物とする果樹を中心に畜産や水稲の複合経営が主体である。特にりんごは昭和45年の転作政策を契機として、和合地区を中心に生産性の高いりんご園への畑地化が行われた経過がある。

現在の稲作農業は、相次ぐ転作の強化や米価の下落に伴い条件の悪い山間地においては面積も大幅に減少しており自己保全が年々増加している現状である。一方大谷地区では大規模な区画整理が行われ、1ha区画の水田が約3割を占め、担い手への集積が進んでいる。

中山間部の条件の悪いほ場では自己保全が年々増加しており、多面的な面からも水田を維持していくことは重要であるため転作作物の選択が大きな課題である。

また、農業従事者の高齢化が進んでいることから、担い手の確保、担い手への農地の集積が課題である。そのため、集落営農組織を核に中核的な農家（認定農業者含む）、規模拡大志向農家等の水田作業の中心を担う担い手が安全・安心な農産物生産の中心的な役割を担いつつも、兼業農家や熟年層も含めた地域全体で農地を維持していくことが重要となってきた。

消費者のニーズと信頼に応える米作りとあわせて果樹や野菜、花き・花木といった高収益作物の振興など地域の実態に応じたバランスの取れた農業振興を図る。

### 2 作物ごとの取組方針等

#### (1) 主食用米

主食用米は、生産の目安に沿った作付面積を確保する。農地の集積化やコスト削減の取組等を図り農業者の所得向上を図っていく。また、地域にあった品種生産を行う他、良食味にこだわった米の生産を行いブランド米の確立を図る。

#### (2) 非主食用米

##### ア 飼料用米

水稲作付技術を活かした転作作物として取り組みやすいように、主食用品種の一括管理により出荷や、多収品種の導入による本作化も推進していく。また、産地交付金を活用したコスト低減等の取組を推進し農家の意識向上を図っていく。飼料用米の推進に当たっては、出荷団体等と協力し複数年契約も含め、契約先の確保を図る。

##### イ 米粉用米

取り組みなし

##### ウ 新市場開拓米

取り組みなし

##### エ WCS用稲

取り組みなし

##### オ 加工用米

取り組みなし

##### カ 備蓄米

## 取り組みなし

### (3) 麦、大豆、飼料作物

当町における取組は少ないが、機械化一貫作業体系が可能な作物であることから、組合や担い手の取り組みの一つとして推進する。

### (4) そば、なたね

そばは、労力も少なく取り組めるため中山間地を中心に耕作放棄地の解消や農地維持の意味も含めて推進を図っていく。また、収量確保のため地域に合った品種の作付、排水対策を図り、団地化を図ることで作業のコスト削減を図り農業所得の増加につなげていく。

なたねの作付は、耕作放棄地に作付し地域資源としている地域もあることから技術連携を図りながら今後検討していきたい。

### (5) 高収益作物（園芸作物等）

当町は、中山間地が多く平場と比べ条件の悪い圃場が多く、収量でも大きな違いが出ている。これまでも中山間地を中心に大規模な果樹園への転換を推進した経緯もある。

今後においても、中山間地を中心として高収益作物への転換を推進していく。

地域特性を生かし高収益が得られる作物を高収益作物と設定し、高品質化を図っていき産地のブランド化を目指す。高収益作物は重点作物ごとに①～②（別紙1）のように設定する。高収益作物は産地の重要な生産品のため産地交付金を活用し規模の拡大を図る。

### (6) 畑地化の推進

当町では水田を果樹園に大規模転作した経緯もあり果樹団地に隣接した水田も多い。水田を畑地化した園地は作業効率も高く団地化も期待できることから新植や移動改植事業等を活用しながら推進する。

## 3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	361.4	355.9	355.0
飼料用米	1.2	2.0	2.0
米粉用米	0	0	0
新市場開拓用米	0	0	0
WCS用稲	0	0	0
加工用米	0	0	0
備蓄米	0	0	0
麦	0	0	0
大豆	6.7	6.5	6.9
飼料作物	0.1	0.2	0.2
そば	1.5	1.5	1.8
なたね	0	0	0
その他地域振興作物	78.9	74.7	80.7

さくらんぼ	3.1	3.0	3.1
すもも	2.2	2.2	2.3
西洋なし	5.6	4.9	5.7
ぶどう	1.0	1.0	1.1
もも	3.5	3.1	3.6
りんご	23.2	23.1	23.4
いちじく	0.1	0.1	0.1
うめ	0.1	0.0	0.1
かき	0.1	0.0	0.1
キウイフルーツ	0.1	0.1	0.1
くり	3.3	3.2	3.3
ブルーベリー	0.9	0.9	0.9
日本なし	0.1	0.1	0.1
えだまめ	1.4	1.1	1.4
かぼちゃ	11.1	10.7	11.5
さといも	0.4	0.4	0.4
つるむらさき	0.1	0.2	0.2
トマト	0.4	0.4	0.4
なす	2.0	1.7	2.0
ねぎ	0.7	0.6	0.7
うど	0.7	0.7	0.7
こごみ	0.3	0.3	0.3
たらの芽	2.0	1.4	2.0
わらび	8.0	7.6	8.1
アイコ	0.2	0.2	0.2
あけび	0.6	0.6	0.6
うるい	0.1	0.1	0.1
行者ニンニク	0.3	0.3	0.3
シオデ	0.1	0.0	0.1
ぜんまい	0.4	0.5	0.4
ふき	0.1	0.0	0.1
ミョウガ	0.2	0.2	0.2
山竹	0.5	0.5	0.5
アスパラガス	0.7	0.7	0.7
いちご	0.1	0.1	0.1
かんしょ	0.1	0.0	0.1
きのこ	0.4	0.4	0.4
キャベツ	0.1	0.1	0.1
きゅうり	0.5	0.4	0.5
さやいんげん	0.1	0.1	0.1
さやえんどう	0.1	0.0	0.1
シソ	0.1	0.0	0.1
ししとう	0.1	0.0	0.1
食用菊	0.2	0.2	0.2
すいか	0.1	0.1	0.1

とうがらし	0.1	0	0.1
だいこん	0.1	0.1	0.1
タマネギ	0.1	0.1	0.1
ニラ	0.1	0	0.1
ニンジン	0.3	0.3	0.3
ほうれんそう	0.9	0.1	0.9
ばれいしょ	0.4	0.9	0.4
ピーマン	0.1	0.2	0.1
ほうれんそう	0.1	0.1	0.1
マカ	0.1	0.1	0.1
啓翁桜	0.1	0.1	0.1
シンフォリカルポス	0.0	0.1	0.1
スノーボール	0.4	0.4	0.4
ユリ	0.3	0.3	0.3
ネコヤナギ	0.0	0.1	0.1
菊	0.3	0.4	0.5
ライラック	0.0	0.1	0.2

#### 4 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	用途名	目標	目標	
				前年度（実績）	目標値
1	野菜・花き・花木 （産直施設へ出荷すること）（基幹作物 （具体的な作物は別紙1に記載の全作物））	施設園芸助成	施設園芸面積	(2019年度) 0.1ha	(2020年度) 0.3ha
2	果樹、野菜、花き・花木(具体的な作物は別紙1に記載) (基幹作物) ①	高収益作物助成①	高収益作物の作付面積	(2019年度) 10.7ha	(2020年度) 10.7ha
	果樹、野菜、花き・花木(具体的な作物は別紙1に記載) (基幹作物) ②	高収益作物助成②	高収益作物の作付面積	(2019年度) 3.9ha	(2020年度) 4.1ha
3	飼料用米（基幹作物）	飼料用米助成（コスト低減（生産性向上の取組））	飼料用米の作付面積 生産費	(2019年度) 0ha 15,438円/60kg	(2020年度) 1.5ha 14,584円/60kg
4	そば（基幹作物）	そば助成	取組面積	(2019年度) 1.0ha	(2020年度) 1.8ha
5	そば（基幹作物）	そば連担化助成	取組面積 労働時間	(2019年度) 0.5ha 4.4h/10a	(2020年度) 1.8ha 3.1h/10a
6	飼料用米	飼料用米助成（複数年契約）	複数年契約取組面積・数量	(2019年度) - - -	(2020年度) 1.8ha・10.3t

※ 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内としてください。